

(19)日本国特許庁(JP)

(12)登録実用新案公報(U)

(11)登録番号
実用新案登録第3237461号
(U3237461)

(45)発行日 令和4年5月17日(2022.5.17)

(24)登録日 令和4年5月9日(2022.5.9)

(51)国際特許分類	F I	
B 4 2 F 1/12 (2006.01)	B 4 2 F 1/12	
B 4 2 D 5/00 (2006.01)	B 4 2 D 5/00	
B 4 2 D 9/00 (2006.01)	B 4 2 D 9/00	B

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全7頁)

(21)出願番号 実願2022-797(U2022-797)	(73)実用新案権者 592113740
(22)出願日 令和4年3月15日(2022.3.15)	アオトプラス株式会社
出願変更の表示 特願2022-788(P2022-788)の変更	東京都葛飾区青戸4丁目2番26号
原出願日 令和4年1月6日(2022.1.6)	(74)代理人 100074251
	弁理士 原田 寛
	(74)代理人 100066223
	弁理士 中村 政美
	(72)考案者 森 洋二
	東京都葛飾区青戸4丁目2番26号ア
	オトプラス株式会社内

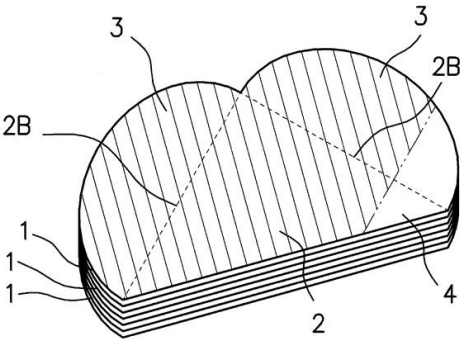
(54)【考案の名称】 付箋紙兼用紙クリップ

(57)【要約】 (修正有)

【課題】付箋紙として使用しながら携帯に便利で、使用時に予め袋等を形成する必要がなく、用紙束を簡単にまとめることができる紙クリップを提供する。

【解決手段】一対の折込線2Bを備えた表面本体2を形成する。用紙の角部側縁に一対の折込線2Bを合わせて表面本体2を重ねる。表面本体2の折込線2Bから一対の裏面固定体3を延長形成する。表面本体2と裏面固定体3とを有する紙材で付箋紙1を形成する。表面本体2と、裏面固定体3とで袋状のクリップを形成する。

【選択図】図2



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

用紙の角部側縁に合わせて重ねるように直角に接する一対の折込線を備えた表面本体と、この表面本体の折込線から夫々拡大延長される一対の裏面固定体とを有する紙材で付箋紙を形成し、用紙束の角部側縁に接する部分に折込線を合わせて用紙束の表面側に貼着した表面本体と、用紙束の表側から裏側に折り曲げた用紙の角部先端に重ねて貼着した一対の裏面固定体とで、用紙束の角部を固定する袋状のクリップを形成することを特徴とする付箋紙兼用紙クリップ。

【請求項 2】

前記付箋紙を形成する前記表面本体と前記裏面固定体とは、夫々略全面に粘着剤を付着した貼着面を有し、前記用紙束の折り曲げられた角部周辺は、前記表面本体と前記裏面固定体との各貼着面で貼着形成された袋状のクリップ内部に固定されるように構成した請求項 1 記載の付箋紙兼用紙クリップ。

10

【請求項 3】

前記貼着面のいずれか一方の一部又は両方の一部に、粘着剤が付着されない非貼着面を形成し、積み重ねた前記付箋紙を非貼着面から剥がすように構成した請求項 2 記載の付箋紙兼用紙クリップ。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

20

本考案は、書類等の用紙束の角を折り曲げて留める付箋紙兼用紙クリップに係り、付箋紙として使用しながら紙クリップとして用紙を留めることができる付箋紙兼用紙クリップに関する。

【背景技術】**【0002】**

用紙束の角を折り曲げて留める紙クリップとして、従来、特許文献 1～3 に記載のクリップが提案されている。いずれのクリップも袋状を成す保持部を備え、この保持部の内側で用紙束の角部を留める構成を成している。

【0003】

すなわち、特許文献 1 の紙クリップは、第 1 の壁部と第 2 の壁部とで袋状の閉鎖縁部を形成し、この中に紙束の角部を差し込んだ後、別部材の補助構造体と共に角部を折り曲げて留める構成である。

30

【0004】

また、特許文献 2 の紙クリップは、三角袋状のクリップ本体を形成し、この内部に屈曲した書類の角部を挿入して掛止め部で留めるように構成している。

【0005】

更に、特許文献 3 の紙クリップは、表シートと裏シートとで、用紙挿入開放部および用紙出口開放部を有する袋状に形成し、これら表シートと裏シートとの間に用紙の折り曲げた端部を挿入し、この折り曲げた端部を留める差込部を裏シートに設けた構成である。

【0006】

40

いずれの紙クリップも、所定の用紙を折りたたんで袋状の挿入部を形成する構造を採用している。したがって、紙クリップを使用する際には、所定の用紙を折りたたんで袋状を成す保持部を予め形成しておく必要がある。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0007】**

【特許文献 1】特許第 5 9 7 0 4 7 9 号公報

【特許文献 2】特開 2 0 0 1 - 1 8 0 1 6 6 号公報

【特許文献 3】特開 2 0 0 7 - 2 4 5 6 9 8 号公報

【考案の概要】

50

【考案が解決しようとする課題】**【0008】**

ところが、複数の紙クリップを携帯する場合、保持部が袋状を成しているので紙クリップの数が増えるほど嵩張ることになる。

【0009】

また、紙クリップを折りたたむ前の用紙を積み重ねて携帯する場合は数多くの紙クリップを携帯することが可能になる。ところが、使用することにより紙クリップを組み立てる必要があるため、複数の紙クリップを簡単に使用できなくなる。

【0010】

そこで本考案は、上述の課題を解消すべく創出されたもので、付箋紙として使用しながら携帯に便利で、しかも予め袋状を成す保持部を形成する必要がなく、用紙束を簡単に留めることができる付箋紙兼用紙クリップの提供を目的とするものである。

10

【課題を解決するための手段】**【0011】**

上述の目的を達成すべく本考案における第1の手段は、用紙Pの角部Pa側縁に合わせて重ねるように直角に接する一対の折込線2Bを備えた表面本体2と、この表面本体2の折込線2Bから夫々拡大延長される一対の裏面固定体3とを有する紙材で付箋紙1を形成し、用紙P束の角部Pa側縁に接する部分に折込線2Bに合わせて用紙P束の表面側に貼着した表面本体2と、用紙P束の表側から裏側に折り曲げた用紙Pの角部Pa先端に重ねて貼着した一対の裏面固定体3とで、用紙P束の角部Paを固定する袋状のクリップを形成

20

【0012】

第2の手段は、前記付箋紙1を形成する前記表面本体2と前記裏面固定体3とは、夫々略全面に粘着剤を付着した貼着面2A、3Aを有し、前記用紙P束の折り曲げられた角部Pa周辺は、前記表面本体2と前記裏面固定体3との各貼着面2A、3Aで貼着形成された袋状のクリップ内部に固定されるように構成した。

【0013】

第3の手段は、前記貼着面2A、3Aのいずれか一方の一部又は両方の一部に、粘着剤が付着されない非貼着面4を形成し、積み重ねた前記付箋紙1を非貼着面4から剥がすように構成している。

30

【考案の効果】**【0014】**

本考案によると、通常は、表面本体2と裏面固定体3とが形成された1枚の付箋紙1として使用できる。

【0015】

また、用紙P束の表面側に貼着した表面本体2と、用紙P束の表側から裏側に折り曲げた用紙Pの角部Pa先端に重ねて貼着した一対の裏面固定体3とで、用紙P束の角部Paを固定する袋状のクリップが極めて簡単に形成されるので、付箋紙1として使用しながら用紙P束の角部Paを簡単に留めることができる。

【0016】

すなわち、従来のように所定の用紙を折りたたんで予め紙クリップを形成する必要はなく、用紙Pの角部Paに合わせて表面本体2と裏面固定体3とを用紙Pの折り曲げた角部Paに貼着するだけで紙クリップが用紙P束を留めることになる。この結果、付箋紙1のように携帯に便利になり、しかも、簡単な手順で袋状の紙クリップとして使用できる画期的な構造になっている。

40

【0017】

更に、積み重ねた前記付箋紙1を非貼着面4から剥がすように構成しているため、付箋紙1として使用する場合も勿論のこと、紙クリップとしても極めて容易に使用することができる。

【0018】

50

このように本考案によると、付箋紙として使用しながら携帯に便利で、しかも、使用時に予め袋状を成す保持部を形成する必要がなく、用紙束を簡単に留めることができるといった当初の目的を達成した。

【図面の簡単な説明】

【0019】

【図1】本考案クリップの一実施例を示す平面図である。

【図2】本考案クリップを積み重ねた状態を示す斜視図である。

【図3】(イ)～(ハ)は、用紙の表側の貼着手順を示す平面図である。

【図4】(イ)～(ハ)は、用紙の裏側の貼着手順を示す平面図である。

【図5】本考案クリップの使用状態を示す斜視図である。

10

【考案を実施するための形態】

【0020】

以下、本考案の実施例を説明する。本考案紙クリップは、1枚ずつ剥がす付箋紙として使用し、この付箋紙1を用紙束の角表面に貼り付けて折り込み裏側に貼り付けると紙クリップが形成されるものである。

【0021】

本考案付箋紙1は、表面本体2と一对の裏面固定体3とを有する紙材で形成される(図1参照)。表面本体2と裏面固定体3との裏面に、夫々略全面に粘着剤を付着した貼着面2A、3Aを有している。

【0022】

20

表面本体2は、用紙Pの角部Paの側縁に合わせて重ねるように直角に接する一对の折込線2Bを備えた部位である(図3(ハ)参照)。そして、表面本体2や裏面固定体3を折りたたまずに複数積み重ねておき、上から一枚ずつ剥がすとそのまま付箋紙1として使用することができる(図2参照)。図示の表面本体2は、直角三角形形状を成しているが、折込線2Bを有する形状なら表面本体2の形状は任意に変更することが可能である。

【0023】

また、各貼着面2A、3Aのいずれか一方の一部又は両方の一部に、粘着剤が付着されない非貼着面4を形成している。そして、積み重ねた前記付箋紙1を非貼着面4から剥がすように構成している。図示例では、表面本体2の折込線2B相互が接しない長手端部近傍から、隣接する裏面固定体3の一端部近傍に亘る非貼着面4を形成している(図2参照)

30

【0024】

一方、本考案紙クリップは、用紙P束の角部Pa側縁に折込線2Bを合わせて用紙P束の表面側に表面本体2を貼着することで袋状のクリップが形成されるものである(図5参照)。すなわち、用紙P束の表側から裏側に折り曲げた裏面固定体3を、用紙Pの裏側に折り込んだ角部Pa先端に重ねて貼着することで、用紙P束の角部Paを固定する袋状のクリップが形成される(図3、4参照)。

【0025】

裏面固定体3は、この表面本体2の折込線2Bから夫々拡大延長される一对の部位である(図3(ハ)参照)。各裏面固定体3は、用紙Pの裏側に重ねて貼着する貼着面3Aを有する(図4(イ)参照)。そして紙クリップとして使用する際に、用紙P束の表面に表面本体2を貼着すると共に(図3(ハ)参照)、用紙Pの裏側に折り込んだ角部Pa先端を裏面固定体3で貼着固定する(図4(ハ)参照)。

40

【0026】

このとき、用紙Pの裏側に折り込んだ角部Pa先端を一方の裏面固定体3で貼着した上に、更に、他方の裏面固定体3を重ねて貼って固定している(図4(ハ)参照)。そうすると、用紙Pの裏側に折り曲げた部分が、重ねた裏面固定体3で袋状に覆われた状態になり、強固に固定されるものである。

【0027】

次に、図3、4に基づいて本考案紙クリップの使用手順を説明する。図3(イ)～(ハ)

50

は、用紙 P 束の表側に貼り付ける手順を示している。まず、(イ)のように、束ねる用紙 P と本考案付箋紙 1 を準備し、(ロ)のように用紙 P の角部 P a を表側から裏側に向けて三角形に折り曲げる。そして、(ハ)のように角部 P a を折り曲げた用紙 P の表側に表面本体 2 を貼り付ける。このとき、表面本体 2 の直交する折込線 2 B が用紙 P の角部 P a の側縁に重なるように貼り付ける。

【 0 0 2 8 】

図 4 (イ) ~ (ハ) は、裏面固定体 3 を用紙 P 束の裏側に貼り付ける手順を示している。(イ) は、角部 P a を折り曲げた用紙 P の裏側を示している。このとき、表面本体 2 は既に用紙 P 束の表側に貼り付けている。また、各裏面固定体 3 の裏側に貼着面 3 A が見えている。次に(ロ)のように、折り曲げた用紙 P の角部 P a の上に一方の裏面固定体 3 を貼り付ける。最後に(ハ)のように、残った他方の裏面固定体 3 を折り曲げた角部 P a の上に重ねて貼り付ける。この際、折り曲げた用紙 P の角部 P a には、2 枚の裏面固定体 3 が重なった状態で貼り付いており、折り曲げた用紙 P の角部 P a 周囲は、裏面固定体 3 で形成された袋状のクリップ内に留められた状態になる。

10

【 0 0 2 9 】

尚、本考案付箋紙や本考案クリップの表面本体 2 や裏面固定体 3 の形状やサイズ、材質等は実施例に限定されるものではなく、本考案の要旨を変更しない範囲において自由に変更できるものである。

【 符号の説明 】

【 0 0 3 0 】

20

P 用紙

P a 角部

1 付箋紙

2 表面本体

2 A 貼着面

2 B 折込線

3 裏面固定体

3 A 貼着面

4 非貼着面

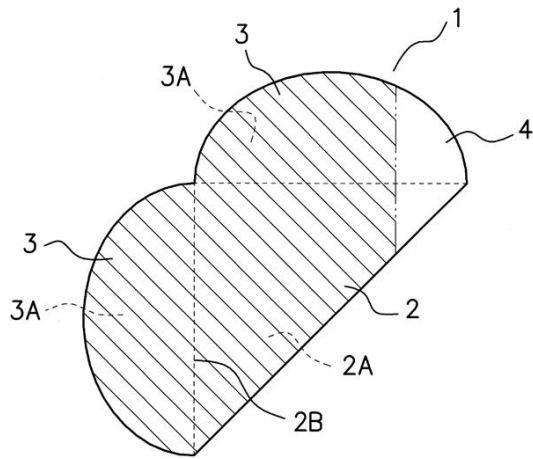
30

40

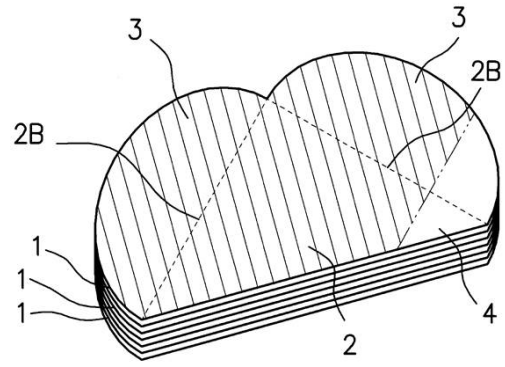
50

【図面】

【図 1】



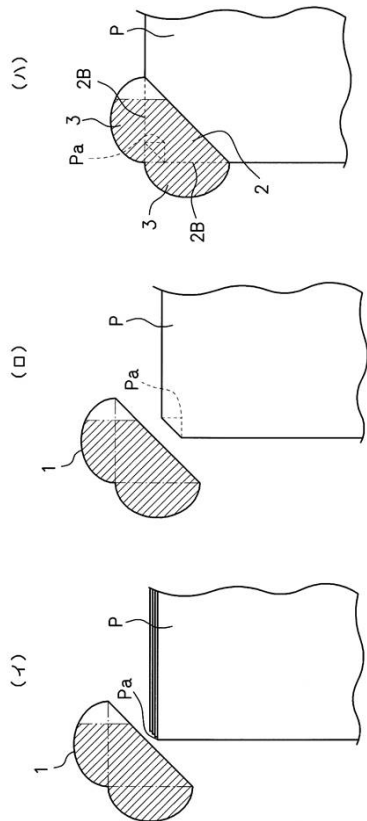
【図 2】



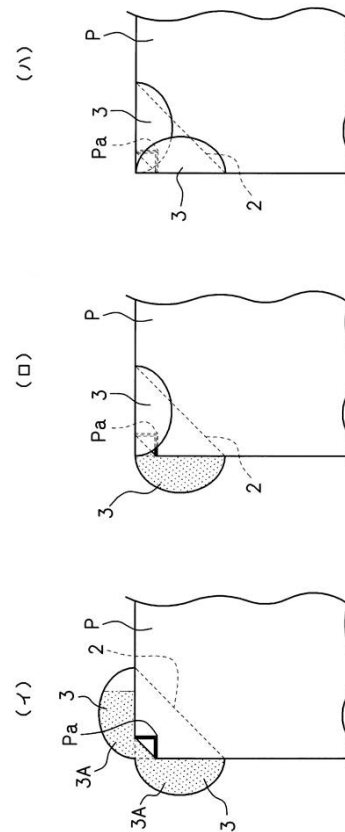
10

20

【図 3】



【図 4】

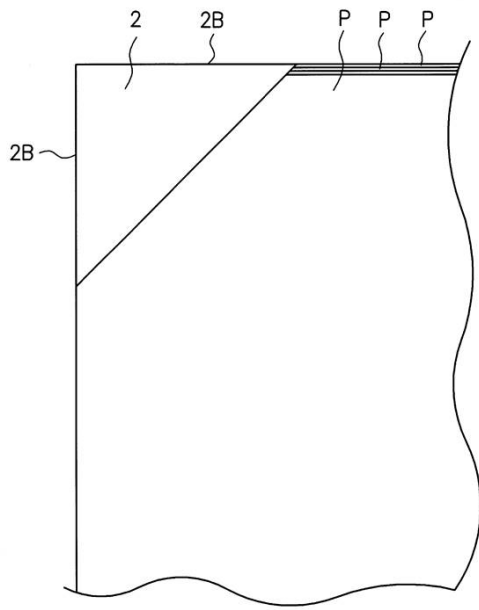


30

40

50

【 図 5 】



10

20

30

40

50